

大津又流域・ジイ沢

～片貝沢～ツマジロウ沢下降

斎藤 憲一

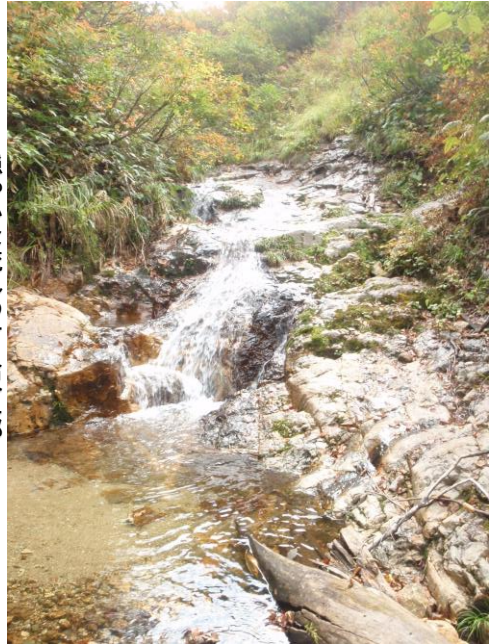
- 山行年月日:平成 30 年 10 月 14 日
- メンバー:斎藤憲一(単独)
- コースタイム BC7:30～ジイ沢 8:00
～稜線 9:00/9:30～片貝沢 9:50～ツ
マジロウ沢への稜線 12:00/12:30～
一ノ沢 14:00～BC14:20

昨日は早くBCを設置し、時間がタップあったので、3人で一ノ沢上流部を途中まで歩いてきたが、今日は単独でジイ沢～片貝沢の上流部を登りツマジロウ沢を下降する周回ルートで遊ぶことにした。お二人さんは白沢岳往復で、BCに14:30まで集合とする。

まずBCから林道をジイ沢出合付近まで戻り、適当な所から一ノ沢へ下降すると間もなくジイ沢出合となる。ジイ沢は出合からすぐに5m程の滝があるが、その後はこれと行った滝は出てこず、稜線まで困難はない。ただ最後の詰めで右に寄りすぎてしまい、少し鞍部まで藪尾根を下降する。ここからの片貝沢までの下降も全く困難はなく、わずかな時間で降り立った本流は、上流部でもあることから、その水流は少ない。

ここから片貝沢上部をツマジロウ沢への乗越しとなる稜線目指して登って行くが、穏やかな流れの中には、時々小さいながらも魚が走る。そして倒木にはキノコが生えているので、魚を見たりキノコを見た

穏やかな流れの片貝沢上部



りと結構忙しい。いくつかのナメ状の小滝を越え、5mの困難そうな滝だけは小巻にして、最後の二俣を右にとって稜線に達するが、藪で見通しはきかない。コンパスで方向を確認してツマジロウ沢の右俣を下降していくが、上流部から所々にアルミ製と思われるワイヤーやガイシなどが現れ、これは一ノ沢出合まで続いていた。この沢はミノコクリ沢から、今回のBC地点とした取水ダムまで地下水路が通っていることから、かつて何らかの電気の送電などに使われてでもいたのだろうか？結局この右俣は最後まで滝は現れず、下降には全く何の問題も無い沢だったのだが、結構な量のナメコをゲットできて、帰りのザックの

方が重くなってしまった。

一ノ沢に出てからは、そのまま沢を上流へ向かい、取水ダムの梯子を登ってBCに戻ると、二人はずでにテントを撤収して待っていてくれた。

ここ奥只見湖の上流部である大津又流域は、アプローチや奥深さにおいて、あまり人が立ち入る地域ではなく、秘境といってもいいイメージを持っていたのだが、その奥深い場所にも取水ダムや林道などの人工物が作られていて、更に工事の時のものと思われる残骸も存在することで、人間の営みが感じとられてしまう。それは持っていた秘境のイメージとは違い、非常に残念な気もする。しかし、それらの恩恵に浸っていることも事実であり、何とももどかしい思いを持つのも、また事実である。

そんな中であっても、変わらず自然は存在し、その自然の中にどっぷり浸かって、全身の五感を総動員しながら遊んで来たひとときに感謝である。

